

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 研究科の教育研究内容と社会のニーズとの関係について定期的に検証する体制を作る。	→検証体制の確立・実施。	A
2. 教員の研究成果を社会に公表し、活動内容の認知を推進する。	→教員の研究成果公表。紀要への論文執筆者数。学会発表数。シンポジウム、講演会の開催数。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目4.0.1	(現状説明) 研究科の教員は各学部に分属されている外国語担当教員38名からなっている。言語コミュニケーション文化学を4つの研究領域(言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学)に分け、各教員は、そのうちの1～3領域に属し、活発な研究活動を行っている。
☆ 小項目4.0.2	(現状説明) 年4回程度、カリキュラム委員会で、研究科の開講科目と社会のニーズの対応について検討を実施している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目4.0.1	言語文化学プログラムを言語文化学(英語)、言語文化学(フランス語)、言語文化学(ドイツ語)の3つに再編成し、言語文化学プログラムを充実させた。2009年度、教員1名が全国的な学会の学会賞を受賞した。
☆ 小項目4.0.2	カリキュラムの改革は、毎年行っており、社会のニーズに対応したものになっている。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目4.0.1	2011年度からは、言語文化学プログラムに言語文化学(東アジア)を加え、アジア関連の科目を新たに開講する。
☆ 小項目4.0.2	日本語教育学プログラムへの入学者が増えており、それに対応するため、2011年度に向けて日本語教育学プログラムに新設科目を設定し、プログラムの充実を図る予定である。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目4.0.1	
☆ 小項目4.0.2	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目4.0.1	
☆ 小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
☆ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○教育研究組織の改善が意欲的に進められています。

【学内委員】

○教育研究組織として適切なものとなるように努力されていることが伺えます。ただ、学会発表数やシンポジウム等の開催数などのデータに基づいた評価が望まれます。

○記述されている内容は適切であると思いますが、小項目4.0.1に関しては、教育研究組織の組織として適切であるかどうかという観点で加筆される方がより適切であると思います。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ なし

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

<個別的な指標>
